

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

ステアリルアミンステアリン酸塩 (ステアリン酸ステアリルアミン)

改訂日: 2019/09/09

SHOWA fine various reagents



安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当

TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2019/09/09
SDS整理番号 19741330

製品等のコード : 1974-1330、1974-1380

製品等の名称 : ステアリルアミンステアリン酸塩

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
有機合成原料、合成中間体、医薬・医薬中間体、はんだフラックスなど



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分外
自然発火性固体 : 区分外
自己発熱性化学品 : 区分外
水反応可燃性化学品 : 区分外

健康に対する有害性

皮膚腐食性・刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2B

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 : 区分1
水生環境慢性有害性 : 区分1

注意喚起語: 警告

危険有害性情報

皮膚刺激
眼刺激
水生生物に非常に強い毒性
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

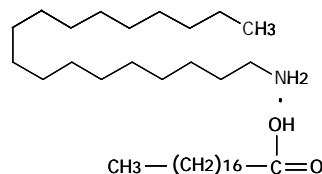
取扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。
眼に入った場合: 水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察、手当を受けること。
眼の刺激が続く場合: 医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
漏出物を回収すること。

【保管】

湿気、日光を遮断し、冷暗所に保管すること。
吸湿性があるので、使用後は速やかに密封して保管すること。



アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

ステアリルアミンステアリン酸塩（ステアリン酸ステアリルアミン）

改訂日：2019/09/09

開封後は速やかに使用すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」又は「区分外」である。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 化学名、製品名	： 単一製品 ： ステアリルアミンステアリン酸塩 （別名）ステアリン酸ステアリルアミン オクタデシルアミンステアリン酸塩 ステアリン酸オクタデシルアミン、 ステアリン酸1-オクタデカンアミン （英名）Stearylamine stearate、 Octadecylamine stearate、 1-Octadecanamine stearate
成分及び含有量 化学式及び構造式	： ステアリルアミンステアリン酸塩、 98.5%以上（乾燥後） ： C ₃₆ H ₇₅ N ₂ O ₂ ・CH ₃ (CH ₂) ₁₆ CH ₂ NH ₂ ・CH ₃ (CH ₂) ₁₆ COOH、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	： 553.99
官報公示整理番号 化審法	： (2)-133「モノアルキル(又はアルケニル、C=5~28)アミン」、 (2)-176「N,N,N-トリ-アルキル(又はアルケニル、アルキル又はアルケニルのうち少くとも1個はC8~24で他はH又はC1~5)アミン」、 (2)-608「ステアリン酸」
CAS No.	： 未登録。 ステアリルアミン： 124-30-1 ステアリン酸： 57-11-4
危険有害成分	： ステアリルアミンステアリン酸塩

4. 応急措置

吸入した場合	： 呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
皮膚に付着した場合	： 直ちに皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の手当を受ける。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	： 直ちに水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起すことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続ける。
飲み込んだ場合	： 直ちに水で口をすすぎ、うがいをする。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 必要に応じて医師に連絡する。 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：情報なし

参考【ステアリルアミン〔CAS No.124-30-1〕の急性症状】

吸入	： 咳、咽頭痛
皮膚に付着	： 痛み、発赤
眼に付着	： 痛み、発赤
経口摂取	： 情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	： 本製品は可燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂など 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	： 棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。） ： 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。 消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。
特有の消火方法	： 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する 安全に対処できるならば着火源を除去すること。

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

ステアリルアミンステアリン酸塩（ステアリン酸ステアリルアミン）

改訂日：2019/09/09

危険でなければ火災区域から容器を移動する。
風上より消火し、環境へ流出しないよう漏洩防止処置を施す。
消火を行う者の保護：消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め適切な防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
風上に留まる。
低地から離れる。

環境に対する注意事項：河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
回収、中和：漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。

封じ込め及び浄化の方法・機材：

二次災害の防止策：危険でなければ漏れを止める。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
近くに裸火源、発火源があれば、速やかに取除く。
事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

技術的対策

：本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
粉じんの堆積を防ぐ。

局所排気・全体換気
安全取扱い注意事項

：換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
皮膚、粘膜等に触れると、炎症を起こすことがある。また、目や口に入ると刺激を受ける恐れがある為、使用の際には十分気を付ける。
取扱い後はよく手を洗う。

接触回避

：湿気、水、高温体、火気との接触を避ける。

保管

技術的対策

：保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。

保管条件

：保管場所は、採光と換気装置を設置する。
高温多湿を避け、乾燥した冷暗所（1～15℃）に保管する。
遮光した気密容器を使用する。
日光、室内光を避け、暗所に保管する。
吸湿性があるので、袋包装の場合、使用後は十分に空気を抜き、密封して保管する。
開封後は速やかに使用する。
品質管理上、夏季気温が上昇して吸湿がすすむと品質劣化し、種々の問題が発生する場合がありますので保管には十分な配慮が必要である。
可燃性であるので、火気に注意する。
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質：強酸化剤、強アルカリ性物質
容器包装材料：ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度：設定されていない。

許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：

日本産衛学会（2018年版）：設定されていない。

ACGIH（2018年版）：設定されていない。

設備対策：この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具

：呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。

手の保護具

：保護手袋（ニトリル製、塩化ビニル製など）を着用する。

眼の保護具

：保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。

皮膚及び身体の保護具：長袖作業衣を着用する。

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

ステアリルアミンステアリン酸塩（ステアリン酸ステアリルアミン）

改訂日：2019/09/09

衛生対策 : 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など : 白色～類白色の結晶、結晶性粉末又は小塊状
臭い : わずかにアミン臭
pH : データなし
融点 : データなし
沸点 : データなし
引火点 : データなし
爆発範囲 : データなし
比重（密度） : データなし
溶解度 : 水に溶け難い。
オクタノール/水分分配係数 : データなし
自然発火温度 : データなし
分解温度 : データなし

GHS分類

可燃性固体 : 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告（UNRTDG）のクラス4.1（可燃性固体）にも該当しない非危険物であることから、区分外とした。
自然発火性固体 : 常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分外とした。
自己発熱性化学品 : 空気との接触により自己発熱性がなく、さらに、国連危険物輸送勧告（UNRTDG）のクラス4.2（可燃性固体）にも該当しない非危険物であることから、区分外とした。
水反応可燃性化学品 : 本品は水に溶け難いが、水に対して安定である（水との混触で可燃性ガスの発生がない）と考えられるので、区分外とした。

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常に取扱条件において安定である。
吸湿性があるので、使用後は容器を密閉する。
吸湿すると、ブロッキングがおきる（固まりの発生）。
光により変質するので、遮光保管する。
可燃性であるので、火気に注意する。
危険有害反応可能性 : 強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。
強アルカリまたは強酸と混触すると反応することがある。
避けるべき条件 : 日光、高熱、湿気、火気
混触危険物質 : 強酸化剤、強アルカリ、強酸
危険有害な分解生成物 : 燃焼で熱分解すると、一酸化炭素、窒素酸化物、二酸化炭素ガスを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 データがないため分類できない。
経皮 データがないため分類できない。
吸入（蒸気） データがないため分類できない。
吸入（粉じん） データがないため分類できない。
ただし、吸入すると、のど、気管、鼻の粘膜を刺激することがある。
皮膚腐食性・刺激性 : 本品はEU-CLP, Annex 1, でリスク分類されていないが、皮膚刺激があるので、区分2とした。
皮膚刺激（区分2）
眼に対する重篤な損傷・刺激性 : 本品はEU-CLP, Annex 1, でリスク分類されていないが、強い眼刺激があるので、区分2 Bとした。
眼刺激（区分2B）
呼吸器感作性又は皮膚感作性 : データがないため分類できない。
生殖細胞変異原性 : データがないため分類できない。
発がん性 : 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。
生殖毒性 : 情報がなく分類できない。
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露） : 情報がなく分類できない。
本品はEU-CLP, Annex 1でリスク分類されていないが、単回ばく露により、呼吸器への刺激が生じることがある。
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露） : 情報がなく分類できない。
反復ばく露により、不快感、吐き気、咽頭痛、咳、頭痛が現れることがある。
吸引性呼吸器有害性 : 情報がなく分類できない。

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

ステアリルアミンステアリン酸塩（ステアリン酸ステアリルアミン）

改訂日：2019/09/09

参考【ステアリルアミン〔CAS No.124-30-1〕の情報】

- 急性毒性 : 経口 ラットのLD50値として、> 2,000 mg/kg (EU-RAR (2008)) に基づき、区分5とした(国連GHS分類)。ただし、分類JISでは区分外である。飲み込むと有害のおそれ(経口)(区分5) 経皮 データがないため分類できない。吸入(蒸気) データがないため分類できない。吸入(粉じん、ミスト) データがないため分類できない。その他のデータ 腹腔 マウス LD50 = 250 mg/kg (RTECS)
- 皮膚腐食性・刺激性 : ウサギを用いた皮膚刺激性試験(OECD TG 404準拠)が報告され、72時間後の紅斑及び浮腫の平均スコアは、3.0及び1.3であり、21日以内に多くの所見が消失している(EU-RAR (2008))ことから、区分2とした。皮膚刺激(区分2)
- 眼に対する重篤な損傷・刺激性 : ウサギを用いた眼刺激性試験(OECD TG 405準拠)において、本物質適用後72時間のドレイズスコアは、結膜発赤3.0、結膜浮腫3.0であることから(EU-RAR (2008))、区分2Aとした。強い眼刺激(区分2A)
- 呼吸器感受性又は皮膚感受性 : 呼吸器感受性 : データがないため分類できない。皮膚感受性 : データ不足のため分類できない。IUCLID (2000)には、ラットやモルモットを用いた試験(OECD TG 404)で「感受性あり」との記述があるが、陽性率等の詳細が不明のため分類できないとした。
- 生殖細胞変異原性 : データ不足のため分類できない。in vivoデータはなく、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陰性である(EU-RAR (2008))。
- 発がん性 : 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。
- 生殖毒性 : データがなく分類できない。
- 特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露) : ラットの強制経口投与において2,000 mg/kg 投与により回復性の自発運動低下、立毛、円背位、歩行異常、活動低下、不規則呼吸等がみられたため(EU-RAR (2008)、BUA 177 (1994))、区分3(麻酔作用)とした。また、同じ試験において、1匹の死亡がみられ、剖検では肝臓の暗色化、肺、腸及び脾臓の着色、脾臓の萎縮、胃及び腸の膨満が認められた(EU-RAR (2008))が、これらの諸症状は僅か1匹の死亡個体のみを観察された剖検時所見であり、特定臓器への影響と判断しなかった。眠気又はめまいのおそれ(区分3)
- 特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露) : イヌに1年間強制経口(カプセル)投与した試験において、区分2に該当する用量(15 mg/kg/day)で、3例中1例が出血性下痢、食欲不振を呈した後死亡した。他の2例も体重増加抑制を示し、病理学的に腸間膜リンパ節(組織球の増加)及び消化管(小腸粘膜絨毛先端部の淡明化)への影響がみられた(EU-RAR (2008))との記述、並びにラットに2年間混餌投与した試験において、区分2に該当する用量(500 ppm; 27-28 mg/kg/day)で、12例中1例に腸間膜リンパ節の組織球性過形成がみられた(EU-RAR (2008))。PATTY (6th, 2012)ではこれを毒性影響としていないが、EU-RAR (2008)ではイヌで同様の影響がみられていることを根拠に、この1例のみの所見は有害性影響であるとの見解を示している。また、ラットの当該試験では高用量群(3,000 ppm; 88 mg/kg/day(雄、区分2)、138 mg/kg/day(雌、区分外))において、小腸粘膜及び腸間膜リンパ節に組織球の蓄積を認めている(EU-RAR (2008))、PATTY (6th, 2012)。従って、ラット、イヌともに区分2のガイダンス値範囲内で消化管(出血性下痢、小腸粘膜の組織変化)及び腸間膜リンパ節に影響がみられているが、腸間膜リンパ節における組織球増多は小腸粘膜への刺激性影響により誘発された二次性変化(局所性の免疫応答)と考え、免疫・リンパ系臓器を標的臓器とするのは妥当でないと判断した。一方、小腸粘膜の組織変化の毒性学的意義は明らかではないが、EUによる有害性影響との見解も踏まえて、区分2(消化管)に分類した。長期又は反復暴露による消化管の障害のおそれ(区分2)
- 吸引性呼吸器有害性 : データがなく分類できない。

12. 環境影響情報

- 水生環境急性有害性 : 本品はステアリルアミンの付加塩であるため、ステアリルアミンと同様に区分1とした。水生生物に非常に強い毒性(区分1)
- 水生環境慢性有害性 : 本品はステアリルアミンの付加塩であるため、ステアリルアミンと同様に区分1とした。長期的影響により水生生物に非常に強い毒性(区分1)
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていない

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

ステアリルアミンステアリン酸塩（ステアリン酸ステアリルアミン）

改訂日：2019/09/09

ため、分類できないとした。

参考【ステアリルアミン〔CAS No.124-30-1〕の情報】

- 水生環境急性有害性 : 藻類（Scenedesmus subspicatus）による72時間ErC50 = 0.12 mg/L（EU-RAR, 2007）であることから、区分1とした。
水生生物に非常に強い毒性（区分1）
- 水生環境慢性有害性 : 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり（BODによる分解度：70-75%（EU-RAR, 2007））、藻類（Scenedesmus subspicatus）の72時間ErC10 = 0.029 mg/L（EU-RAR, 2007）であることから、区分2となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性があり（BODによる分解度：70-75%（EU-RAR, 2007））、甲殻類（オオミジンコ）の48時間EC50 = 0.13 mg/L（EU-RAR, 2007）であることから、区分1となる。以上の結果を比較し、区分1とした。
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性（区分1）
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
（参考）(1) 燃焼法
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラバー付き焼却炉の火室で焼却する。
(2) 活性汚泥法
生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。
- 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 171

国際規制

海上規制情報（IMDGコード/IMOの規定に従う）

UN No. : 3077
Proper Shipping Name : ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
Class : 9（有害性物質）
Sub risk : -
Packing Group : III
Marine Pollutant : Yes（該当）
Limited Quantity : 5kg

航空規制情報（ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う）

UN No. : 3077
Proper Shipping Name : Environmentally hazardous substance, solid, n.o.s.
Class : 9
Sub risk : -
Packing Group : III

国内規制

陸上規制情報（特段の規制なし（非危険物））

海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う）

国連番号 : 3077
品名 : 環境有害物質（固体）
クラス : 9
副次危険 : -
容器等級 : III
海洋汚染物質 : 該当

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

ステアリルアミンステアリン酸塩 (ステアリン酸ステアリルアミン)

改訂日:2019/09/09

少量危険物許容量 : 5kg
航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)
国連番号 : 3077
品名 : 環境有害物質 (固体)
クラス : 9
副次危険等級 : -
少量輸送許容物件 : III
許容量 : 30kg (包装込みの質量)
特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当
毒物及び劇物取締法 : 非該当
消防法 : 非該当
化学物質管理促進法 (PRTR法) : 非該当
船舶安全法 : 非該当
航空法 : 非該当
水質汚濁防止法 : 生活環境項目 (施行令第三条第一項)
「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
〔排水基準〕160mg/L 以下 (日間平均 120mg/L 以下)
「窒素の含有量」
〔排水基準〕120mg/L 以下 (日間平均 60mg/L 以下)
(注) 排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合は、それに従うこと。
輸出貿易管理令 : 別表第1の16項 (キャッチオール規制) 第29類 有機化学品
HSコード (輸出統計品目番号、2019年4月1日版) : 2921.19-000
「非環式モノアミン塩 - その他のもの」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会編
化学大辞典 共同出版
安衛法化学物質 化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版) 医歯薬出版
化学物質安全性データブック オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) 三共出版
化学物質の危険・有害性便覧 労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じて作成しています。